

テーマ 「 予防の秋 」

あれだけの猛暑がウソのように、涼しくなってきました。そろそろ、「食欲の秋・スポーツの秋・行楽の秋」ということで楽しみなはずのところなんですが、残念ながら、今年は「新型コロナ」の影響により、自粛や巣ごもり生活、ソーシャルディスタンスなどによって、未だ、色々なことが制限されていますが、そんな中でも、だんだんいろんなことがわかりつつあるようです。

なぜ、「新型コロナ」は拡大を続けているのか？数千種類あるコロナウイルスで人間に感染するのは七種類、四つは風邪を引くだけ、あと三つが重症肺炎を引き起こすとされている。SARS・MERSそして、COVID-19新型コロナです。三つは似ているが、新型コロナは特徴として、多くは軽症や無症状で発症前から感染させてしまうことが問題となっている。

ただ、イメージとしてウイルスに感染＝病気という感じがあるがそうではなく、東大医科研究所によると、実際には人間の身体の中には39種類くらいのウイルスが存在しているという。よく耳にするものにヘルペスウイルスというものがある。口の周りや、帯状疱疹といって肋骨の間など神経に沿ってできる発疹で痛みを伴う。これらはもともと体内に潜んでいて、疲労やストレスなどが重なり免疫が落ち込んだ時に発症してしまい、治癒してもなくなるものではない。このように特異的にはたらく仕組みが分かれば、今回の「新型コロナ」のようにコウモリに感染しても発症せず、人間にうつると発症してしまう謎も解けるかもしれない。

また、宿主としてウイルスに利用されるだけでなく、利用することも可能かもしれない。1つは、抗生物質がまだなかった頃、腸チフスや赤痢、コレラなどの細菌感染の治療に細菌に感染するウイルス「ファージ」というものが使われていた。抗生物質ができてからは使われなくなったが、近年、抗生物質が効かない「多剤耐性菌」に対して応用できるのではないかといわれている。2つ目は、がん治療。ウイルスは細胞内で増えて細胞を壊し、また別の細胞へと感染して次々と細胞を壊していく。このウイルスに対して免疫が働くのだが、がん化した細胞のみに感染するウイルスと免疫との両方ががん細胞を攻撃できればという試みだ。

これだけ人類が増え、科学技術が発展しても、たった小さなウイルス一つに、これだけ翻弄されてしまうのだから、人間が生物の中で絶対王者にはなれず、共存共栄が大事ということを考えさせられます。結局、自然の中で生かされているのでしょう。自然に逆らわず、知恵を絞り乗り越えて、また安心した日常を取り戻したいところです。そんな自然をもとに考えられ使われてきたのが、漢方やはり灸などの東洋医学です。ウイルスに対して、手洗いやマスクなど予防が大事ですが、まさに東洋医学は予防医学ともいわれています。普段から、はりやお灸で免疫力も高めておきましょう。

